

TOYAから明日へ！
とけてゆくスイス～氷河×光×地球の未来～
グリーンイメージ国際環境映像祭
「グリーンイメージ賞」受賞

北海道テレビ放送（HTB）が地球温暖化による氷河融解の現状を伝えるだけでなく、それを食い止めるための最新の研究と究極のテクノロジーの数々を、圧倒的な映像美とともにお茶の間に届けたドキュメンタリー「TOYA から明日へ！とけてゆくスイス～氷河×光×地球の未来～」が、第4回グリーンイメージ国際環境映像祭グリーンイメージ賞を受賞しました。昨年9月の映文連アワード2016「優秀企画賞」に続く受賞です。

グリーンイメージ国際環境映像祭は、環境をキーワードに国内外の環境映像を顕彰するもので、アニメーションからドキュメンタリーまで、幅広いジャンルの作品を審査対象にしています。今回は48の国と地域から194作品もの応募があり、HTBの「TOYA から明日へ！とけてゆくスイス」を含む15作品がグリーンイメージ賞に選ばれました。3月に東京でこれら15作品の上映会が開催され、最終審査を経て「グリーンイメージ大賞」が選出されることになっています。

- 【受賞番組】 TOYA から明日へ！ とけてゆくスイス～氷河×光×地球の未来～
【放送日時】 2016年2月11日（木）（北海道ローカル）、6月29日（BS朝日）
【スタッフ】 ナレーション：山根基世 撮影：石田優行 ディレクター：及川桂司
プロデューサー：濱中貴満 エグゼクティブプロデューサー：寺内達郎
【番組内容】

HTBは開局40周年にあたる2008年に洞爺湖で開催されたG8サミットで採択された脱温暖化宣言を機に、地域メディアとして地球環境を考える「TOYA から明日へ！」キャンペーンを行っています。北海道大学低温科学研究所の杉山慎研究室と共同で過去グリーンランド、パタゴニアの氷河を撮影しその現状を取材・環境特別番組として放送してきました。シリーズ第3弾となる「とけてゆくスイス～氷河×光×地球の未来～」では、地球温暖化の影響を受けて予想を超える速さで融解し、縮小し続けるスイスアルプスの氷河に密着。次世代映像技術である4Kカメラ、また空撮ドローンを駆使して収めた映像で、地球のあるべき未来の姿を考えるサイエンス・ドキュメンタリーに仕上げました。

グリーンイメージ国際環境映像祭とは、1992年から21年間続いた国際環境映像祭が前進。東北での国際映像祭・上映プロジェクトの流れもくみ、2013年に創設されました。作品を生んだ地域文化・生活や多様性に根ざす在り方を考える場として、映像文化と実践・教育が両輪となった広がりのある映像祭でもあります。世界34の国際環境映像祭ネットワークにも参加し、日本の優れた作品を海外に紹介する役割も果たしています。